



# Yokohama Yomiuri ヨコハマよみうり



■発行/横浜読売会  
■発行日/毎月5日  
■発行部数/40万部  
■発行エリア/横浜市内全域  
■制作/ヨコハマよみうり編集部  
〒231-0023  
横浜市中区山下町51-1  
読売横浜ビル8F  
<http://yokohama-yomiuri.co.jp>

音楽 落語  
演劇・舞台 ファミリー  
チケットのお求めは7面へ  
限定特価、先行発売、お見逃しなく!

Woooo,woooooo,wo,wo,wo,wowヤ・ス・ア・キー♪「日本一のクローザー」横浜DeNAベイスターズ 山崎康晃投手。

登場時「康晃JUMP」のジャンプ＆シャウトで球場が一体となって盛り上がる光景はハマスタ名物。

今年もたくさんJUMPしたい! 康晃さん、よろしくお願ひいたします。

## 野球との出会い

野球との出会いは小学2年生。父親の草野球についていったのが最初でした。横浜でもプレーした森本稀哲さんと地元が一緒に、お互いの両親が仲良く、それがきっかけで少年野球チームに入りました。初めからピッチャー志望。なんといっても目立つし、野球といえばピッチャーかな、と。でも最初は外野で球拾いでした。

中学校では野球部と、地元クラブチームの両方に所属。平日は部活、土日はクラブチームと1週間野球漬けの3年間を過ごしました。高校は帝京高校へ。憧れの稀哲さんが着ていた縦縞のユニフォームを僕も着たかったからです。中学の進路相談の時に、僕が「私立単願で」と言ったら、母はびっくりして固まっていました(笑)。

3年生になってエース番号をもらったのに、甲子園に行けませんでした。エースを付けた大会で、すぐに負けてしまうなんて悔しかったですね。その年、プロ志望届を提出しましたが、ドラフト会議では指名から漏れました。野球を辞めて、柔道整復師の勉強をしようかと資料請求までして悩んでいた時に、亜細亜大学から声をかけていただき、野球を続ける決意をしました。

## 横浜愛

2014年のドラフト会議で、横浜DeNAベイスターズから1位指名を受け、2015年に入団。大学の一つ上の先輩、嶺井博希さん(捕手)がすでに在籍していましたし、横浜の街はきれいで、海があって、観光地のイメージがあったので、本当に楽しめました。実はそれまで一度も横浜に来たことがなかったんです。電車で1時間くらいだったのに、ちょっと遠い所だと思っていたんです。

入団して5年、横浜に住んで4年が経ちました。やっぱり景色もきれいだし、街の人気が温

かい。いろいろなところで声をかけていただけて、横浜に対する愛着がどんどん湧いています。

## 特技は「楽しむこと

DIYをしたり、絵を描いたり、細かな作業が好きです。そうすることで解放というか、リラックスできる。野球以外の時間を作ることでうまくバランスを取っているのかな。土日などはデーゲームが終わって足でホームセンターに行くこともあります。先日、人工芝を購入し、ベランダ一面に敷いたんですよ。配管にもピタリと合うように丸く切り、芝目も全部そろえて貼りました。楽しかったですね。そんな野球選手、いないのではないでしょうか(笑)。パズルやプラモデルも好きで、眠れない時にやります。アウトドアも好きです。ドライブで遠出することもあります。

SNSも自分のスタイルで楽しんでいます。グラウンド以外での選手の素敵な一面をもつと見てもらいたいですし、野球人口が減りつつある現在、野球の魅力を伝えるために情報ツールとして役立てていきたいな、と思っているんです。先日も侍ジャパンのメンバーの様子を撮ってTwitterに投稿ましたが、あまりの反響の大きさに驚きました。

もしも選手じゃなかったら、広報の仕事をやってみたい。サポート側の目線で、選手がどのように見えているのか気になります。その他にも、球場には様々な仕事がたくさんあって、そのすべてに興味があります。ファンの皆さんのが気持ちも味わってみたいですし、野球に関わる全ての人たちの思いを大事にしたいです。

## 初の「胴上げ」

2019 WBSCプレミア12では見事優勝し、初めて胴上げ投手になりました。「胴上げ投手ってどんなだろう?」と、前回大会のダルビッシュ有さんの映像を見てからマウンドに上がりまし



た。きっちり抑えて、マウンドでみんなに迎えられて、想像しつつ(笑)。世界の舞台で胴上げされた気分は最高! 本当に良い経験をしました。まだ横浜で胴上げされていません。今シーズンはベイスターズの胴上げ投手になれるように頑張りたい。またオリンピックでは、野球はここ横浜スタジアムをメイン会場として試合が行われますから、メンバーに選出されて、名前が呼ばれるように、しっかり自分のパフォーマンスを表現したい。認められるように頑張りたいなと思っています。

## 球場に響く、「康晃JUMP」♪

「康晃JUMP」は僕の活力であり、武器です。あれで球場の雰囲気がガラッと変わり、勢いづいて、モチベーションも上がって、「ヨシッ」という思いでマウンドに立てるのは財産です。プレミア12では、他の球団のファンの方も

ジャンプして僕の名前を叫んでくれました。日本代表のユニフォームに袖を通して投げられるという、プロ野球選手にとってそれだけでも喜ばしいことなのに、認められた証拠というか、本当に嬉しかった。僕も一度は「康晃JUMP」してみたいです(笑)。

昨年はクライマックスシリーズを初めて横浜スタジアムで戦うことができましたが、敗退。悔しさが残るシーズンでもありました。今シーズンこそリーグ優勝を果たし、日本一になりたいですね。2月に始まるキャンプから死に物狂いで、目の色を変えてやつていきたい。皆さんの嬉しい顔を見られるように、パワー全開で頑張っていくので、「康晃JUMP」を飛びに、ぜひ球場へ足を運んでください。明るくエネルギーに、横浜にパワーを与えていきますので、応援よろしくお願いいたします。